

令和5年度

(令和4年度決算)

【県評価調書】… P1

環境生活部スポーツ振興課

【経営評価報告書】…P2～

(公財) 島根県障害者スポーツ協会

評価調書(県総合評価調書)

【評価の基準】

- (1)多様化・高度化する県民ニーズや社会経済情勢等の変化への的確な対応
- (2)厳しい財政状況を踏まえた簡素で効率的な事業展開
- (3)県の財政的、人的関与の適正化による主体的・機動的な団体運営
- (4)役職員体制の適正化による自律的かつ効率的な組織運営
- (5)積極的な情報提供の推進による団体に対する県民の理解と信頼の促進

1. 評価結果(個別観点)

観 点	評価内容	評 価
団体のあり方	本団体は、平成24年4月に新公益法人制度改革に係る公益財団法人へ移行し、各種障がい者スポーツ活動行事の企画・実施・運営を行っている。今後も引き続き、障がい者スポーツ活動の振興・普及を通じた障がい者の社会参加を促進する活動を継続することが必要である。 なお、県障がい者スポーツ大会参加者の減少や高齢化の課題に対応し、障がい者が気軽に地域でのスポーツに参加してもらえるような環境にしていくべく、自主事業の更なる拡大・充実が求められる。	B
組織運営	島根県社会福祉協議会と事務局を統合し、体制の強化及び効率的な運営を図っている。 県から県立盲学校長及び教員が、障がい児教育に関する知見のある者として、非常勤の理事(2名)に選任されている。また、スポーツ振興課長と特別支援教育課長が、非常勤の評議員に選任されている。	A
事業実績	県の委託事業である県障がい者スポーツ大会の開催や、全国障害者スポーツ大会への派遣を実施しているほか、団体の自主事業として障がい者スポーツ活動支援助成などにも取り組んでいる。 新型コロナウイルス感染拡大防止等の影響により、4年ぶりに全国大会が開催されたほか、県大会も中止・延期の競技が各1種目あったものの概ね開催することができたが、参加者数は微減(R3:378名、R4:366名)。 障がい者スポーツの集いについては、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底し、県内2会場で「しまねレクリエーション・フェスティバル」を開催した。新型コロナウイルスの影響で日程変更したこともあり、参加者数は前年の8割程度となった(R3:265名、R4:211名)。 障がい者のスポーツ活動の支援者育成については、島根県障がい者スポーツ指導者協議会と協働で取り組んでいるが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、初級障がい者スポーツ指導員養成員研修が従来の宿泊研修から日帰り研修に変更するなど規模を縮小して開催した。	-
財務内容	財務内容は概ね良好である。財源の確保については、資産の一部取り崩し、基本財産の運用益、賛助会員の呼びかけ強化等により財源確保に努めている。 経常収益の86.7%を県からの委託事業が占めている。 また、県からの出捐金2億円を含めた基本財産の運用収入約300万円を自主事業の財源としているほか、平成27年度からは資産を一部取り崩して事業を実施している。	B

評価の目安 A:良好である B:ほぼ良好である C:やや課題がある D:課題が多い

2. 総合評価

団体の経営評価報告書における総合評価について	課題の内容等	今後の方向性	評価コメント
	「島根かみあり国スポ・全スポ2030」の開催に向けた諸準備	大会に参加する選手の発掘ならびに育成、それらを支える指導者の養成等に取り組む。	障がい者団体、競技団体、県庁関係課等を構成員とする専門委員会を立ち上げ、選手・役員の確保対策や競技会場の選定など、具体的な検討を進めていく必要がある。
総合コメント 「島根県障がい者基本計画」では、スポーツ活動は、心身の発達や健康・体力の保持増進ばかりでなく、障がい者の自立と社会参加の促進を図るために大切なものであると位置づけている。また、「島根県スポーツ推進計画」では、障がい特性に応じて、誰もが参加し楽しむことができるスポーツ活動の推進を行うこととしている。本団体は、障がい者スポーツ大会の企画から実施・運営を行う県内における中核的な団体である。また、県大会の開催や全国大会への選手派遣などの県委託事業のほか、自主事業である障がい者スポーツ活動支援助成などスポーツを通じた障がい者の社会参加推進に大きく貢献しているが、令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に取り組みながら、主要事業においては、全国大会の派遣、県大会の開催等、概ね計画どおりに実施できたものの、参加者数は微減となった。 現在、「島根かみあり国スポ・全スポ2030」の開催に向けた諸準備を進めているが、大会に参加する選手の発掘・育成、それらを支える指導者の養成、さらに大会ボランティアの育成等が課題となっており、当課及び関係機関、県庁関係課等と連携して、具体的な検討を進めていくことが必要。			

経営評価報告書[組織体制シート(各法人共通)]

(A)-1

令和5年7月1日 現在

1. 組織の概要

団体名		代表者(職・氏名)		所在地	
公益財団法人島根県障害者スポーツ協会		理事長	福井 幸夫	松江市東津田町1741-3	
		(任期)	R4.6.28～R6.6評議員会		
設立時期	設立根拠	県所管課	事業年度終了日	適用会計基準	
H24.4 (S54.5)	整備法第44条	スポーツ振興課	R5.3.31	公益法人会計基準 (H20.4.11)	
基本財産の状況〔千円〕※R5.3.31現在		県出資等比率	運用財産の状況〔千円〕 ※R5.3.31現在		
合計額	247,906	78.4%	合計額	6,246	
うち県出資等額	194,436		うち取崩しを前提として県が造成補助した財産		
債務保証の状況〔千円〕※R5.3.31現在		県出資等との比率			
債務保証の額		0.0%			
設立目的					
障害者がスポーツ活動を通じた健康の増進と自立意欲の向上を図ることにより、障害者の社会参加を促進し、障害の有無にかかわらず、相互に個性の差異と多様性を尊重し、人格を認め合う共生社会の実現に寄与することを目的とする。					
主な事業内容					
1. 障害者のスポーツ活動の振興 2. 障害者のスポーツ活動に関する調査研究及び啓発広報 3. 障害者のスポーツ活動の支援者育成					

注) 設立時期の欄カッコ書きは、公益法人制度改革による移行前の団体設立時期

2. 役員等数 ※当年度欄はR5.7.1現在、前年度欄はR4.7.1現在

	常勤			非常勤			計		
	当年度	前年度	増減	当年度	前年度	増減	当年度	前年度	増減
理事		1	▲ 1	10	10	0	10	11	▲ 1
うち県OB職員		1	▲ 1			0	0	1	▲ 1
うち県職員			0	2	2	0	2	2	0
監事			0	3	3	0	3	3	0
うち県OB職員			0	0	1	▲ 1	0	1	▲ 1
うち県職員			0			0	0	0	0
小計(役員計)	0	1	▲ 1	13	13	0	13	14	▲ 1
うち県OB職員	0	1	▲ 1	0	1	▲ 1	0	2	▲ 2
うち県職員	0	0	0	2	2	0	2	2	0
評議員			0	10	11	▲ 1	10	11	▲ 1
うち県OB職員			0	0	1	▲ 1	0	1	▲ 1
うち県職員			0	2	2	0	2	2	0
合計	0	1	▲ 1	23	24	▲ 1	23	25	▲ 2
R4年度会議開催数	理事会等		3 回	評議員会等		1 回			

3. 県職員である役員等の内容

	県における所属・職名等	前年度と比較して異動のあった事項及び人数
理事	県立盲学校・校長及び教員	
監事		
評議員	県スポーツ振興課課長・県特別支援教育課課長	

経営評価報告書[組織体制シート(各法人共通)]

(A)-2

4. 職員数 ※当年度欄はR5.7.1現在、前年度欄はR4.7.1現在

	人数			県OB:団体での職名	前年度と比較して 異動のあった事項
	当年度	前年度	増減	県派遣:団体での職名(県での所属)	
正規職員	4	4	0		
うち県OB職員			0		
うち県派遣職員			0		
うち県職員兼務			0		
嘱託職員			0		
うち県OB職員			0		
臨時職員等			0		
うち県OB職員			0		
計	4	4	0		

5. 人件費の状況(退職手当を除く)

(1) 役員の報酬等

【円】

支給対象人数		役員報酬等の当団体負担額			福利厚生 ・共済費等	人件費計
		報酬	その他	小計		
①当該団体が報酬等の全部を支給している役員						
	0人	0	0	0	0	0
常勤	人			0		0
	(1人当り)	—	—	0		0
非常勤	人			0		0
②他団体等が報酬等の一部または全部を負担している役員						
	0人	0	0	0	0	0
常勤	人			0		0
	(1人当り)	—	—	0		0
非常勤	人			0		0
計(①+②)						
	0人	0	0	0	0	0
常勤	0人	0	0	0	0	0
非常勤	0人	0	0	0	0	0

(2) 正規職員の給与等(R4実績)

【円】

支給対象人数	正規職員の給与等の当団体負担額				福利厚生 ・共済費等	人件費計
	給料	職員手当	賞与	小計		
①当該団体が職員給与費の全部を支給している職員						
2 人	6,668,544	2,118,021	2,463,608	11,250,173	1,707,059	12,957,232
(1人当り)	3,334,272	1,059,011	1,231,804	5,625,087		
②他団体等が職員給与費の一部または全部を負担している職員						
1 人	3,238,564	979,024	1,264,904	5,482,492	922,732	6,405,224
(1人当り)	3,238,564	979,024	1,264,904	5,482,492		
計(①+②)						
3 人	9,907,108	3,097,045	3,728,512	16,732,665	2,629,791	19,362,456

【人件費の状況に関する記載内容の注意事項】

※ 人件費部分を、団体事務委任契約に基づき島根県社会福祉協議会へ負担金として支出。

※
※
※

経営評価報告書[事業実績シート(各法人共通)]

(B)-1

1. 事業概要

事業名	内部管理(法人会計)				
目的及び内容	事務、各種会議開催等				
目標(値)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	目標値				
	実績値				

2. コスト等の推移

(単位:円)

区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度(計画)
コスト	5,125,375	5,152,988	5,205,679	5,320,000
事業費	1,045,375	1,072,988	1,125,679	1,229,000
財源内訳				
補助金・負担金				
うち県分				
受託料等	254,033	215,095	122,236	393,000
うち県分	254,033	215,095	122,236	393,000
(上記のうち指定管理料)				
県が造成補助した運用財産の取崩収入				
資産運用収入	657,603	657,504	657,009	657,000
使用料・入場料等				
借入金				
その他(上記以外)	133,739	200,389	346,434	179,000
人件費	4,080,000	4,080,000	4,080,000	4,091,000
職員別内訳				
役員、評議員				
正規職員、その他職員	4,080,000	4,080,000	4,080,000	4,091,000

3. 事業実績に対する評価等

指標に基づく評価	—	(評価の目安) a: 目標を達成するとともに非常に効果があった b: かなり効果があった c: 効果が十分でなく手法を見直す必要がある d: 効果が出ておらず、事業そのものを見直す必要がある
説明		
税理士の指導の下、適切な会計管理を行った。 会計業務の委託経費については、各公益事業にも按分して計上している。		

経営評価報告書[事業実績シート(各法人共通)]

(B)-2

1. 事業概要

事業名	公1 障がい者のスポーツ活動の振興				
目的及び内容	1. 全国障害者スポーツ大会強化派遣事業 2. 島根県障がい者スポーツ大会開催事業 3. 島根県障がい者スポーツ大会実行委員会開催事業 4. 選手強化育成事業 5. 団体強化派遣事業 6. 障がい者スポーツ活動支援助成事業 7. スポーツ教室開催事業				
目標(値)	県大会参加者				
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	目標値	850名	850名	850名	850名
	実績値	中止	378名	366名	

2. コスト等の推移

(単位:円)

区分		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度(計画)
コスト		22,057,026	22,705,156	41,792,209	41,327,000
事業費		9,817,026	10,465,156	29,552,209	29,144,000
	補助金・負担金			1,890,315	
	うち県分				
	受託料等	7,396,276	8,023,148	25,121,621	27,266,000
	うち県分	7,396,276	8,023,148	25,121,621	27,266,000
	(上記のうち指定管理料)				
	県が造成補助した運用財産の取崩収入				
	資産運用収入	2,082,435	2,081,678	2,079,943	1,759,000
	使用料・入場料等				
	借入金				
	その他(上記以外)	338,315	360,330	460,330	119,000
人件費		12,240,000	12,240,000	12,240,000	12,183,000
	職員別内訳				
	役員、評議員				
	正規職員、その他職員	12,240,000	12,240,000	12,240,000	12,183,000

3. 事業実績に対する評価等

指標に基づく評価	—	(評価の目安)	a: 目標を達成するとともに非常に効果があつた b: かなり効果があつた c: 効果が十分でなく手法を見直す必要がある d: 効果が出ておらず、事業そのものを見直す必要がある
説明	○全国大会(栃木開催)派遣も含め、それに関する事業が実施できた。 ○県大会については開催はしたものの、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、参加人数は366名となった。 ○トップアスリート強化育成事業においては、前年に引き続き、基本財産を活用して1名のアスリートを支援した。 ○新型コロナウイルス感染予防対策を実施し、スポーツ教室(スキー・ボッチャ)を実施することができた。		

経営評価報告書[事業実績シート(各法人共通)]

(B)-3

1. 事業概要

事業名	公2 障がい者のスポーツ活動に関する調査研究及び啓発広報				
目的及び内容	1. 障がい者スポーツの集い開催事業 2. 広報啓発活動 3. 障がい者スポーツ功労者等表彰事業 4. 障がい者スポーツ関係者会議				
目標(値)	障がい者スポーツの集い参加者数				
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	目標値	700名	700名	700名	700名
	実績値	532名	265名	211名	

2. コスト等の推移

(単位:円)

区分		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度(計画)
コスト		2,321,640	2,394,075	2,317,178	2,977,000
事業費		281,640	354,075	277,178	946,000
財源内訳	補助金・負担金	55,000	81,748	116,504	348,000
	うち県分				
	受託料等	127,016	172,678	61,118	
	うち県分	127,016	172,678	61,118	
	(上記のうち指定管理料)				
	県が造成補助した運用財産の取崩収入				
	資産運用収入	99,624	99,649	99,556	100,000
	使用料・入場料等				
	借入金				
	その他(上記以外)				498,000
人件費		2,040,000	2,040,000	2,040,000	2,031,000
職員別内訳	役員、評議員				
	正規職員、その他職員	2,040,000	2,040,000	2,040,000	2,031,000

3. 事業実績に対する評価等

指標に基づく評価	—	(評価の目安) a: 目標を達成するとともに非常に効果があつた b: かなり効果があつた c: 効果が十分でなく手法を見直す必要がある d: 効果が出ておらず、事業そのものを見直す必要がある
説明		
○障がい者スポーツの集いとして開催した「しまねレクリエーション・フェスティバル」については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、県内2会場(松江市・浜田市)ともに100名程度の参加にとどまった。		

経営評価報告書[事業実績シート(各法人共通)]

(B)-4

1. 事業概要

事業名	公3 障がい者スポーツ活動の支援者育成				
目的及び内容	1. 障がい者スポーツ指導員活動の強化支援 2. 障がい者スポーツボランティアの推進				
目標(値)	障がい者スポーツ活動を推進するためのキーパーソンとなる障害者スポーツ支援者数				
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	目標値	730名	730名	730名	730名
	実績値	中止	706名	437名	

2. コスト等の推移

(単位:円)

区分		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度(計画)
コスト		2,167,016	2,371,748	2,351,118	2,566,000
事業費		127,016	331,748	311,118	535,000
	補助金・負担金		250,000	250,000	250,000
	うち県分				
	受託料等	127,016	81,748	61,118	40,000
	うち県分	127,016	81,748	61,118	40,000
	(上記のうち指定管理料)				
	県が造成補助した運用財産の取崩収入				
	資産運用収入				
	使用料・入場料等				
	借入金				
	その他(上記以外)				245,000
人件費		2,040,000	2,040,000	2,040,000	2,031,000
	役員、評議員				
	正規職員、その他職員	2,040,000	2,040,000	2,040,000	2,031,000

3. 事業実績に対する評価等

指標に基づく評価	—	(評価の目安) a: 目標を達成するとともに非常に効果があつた b: かなり効果があつた c: 効果が十分でなく手法を見直す必要がある d: 効果が出ておらず、事業そのものを見直す必要がある
説明	○初級障がい者スポーツ指導員養成研修の参加者は16名あり、昨年度より増加した。	

経営評価報告書[事業実績総コストシート(各法人共通)] (C)

コスト等の推移

(単位:円)

区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度(計画)
総コスト	32,985,123	34,541,365	52,765,583	52,752,000
事業費	12,585,123	14,141,365	32,365,583	32,416,000
財源内訳				
補助金・負担金	55,000	422,678	2,256,819	598,000
うち県分				
受託料等	7,904,341	8,350,138	25,366,093	27,699,000
うち県分	7,904,341	8,350,138	25,366,093	27,699,000
(上記のうち指定管理料)				
県が造成補助した運用財産の取崩収入				
資産運用収入	2,839,662	2,838,831	2,836,508	2,516,000
使用料・入場料等				
借入金				
その他(上記以外)	1,786,120	2,529,718	1,906,163	1,603,000
人件費	20,400,000	20,400,000	20,400,000	20,336,000
職員別内訳				
役員、評議員				
正規職員、その他職員	20,400,000	20,400,000	20,400,000	20,336,000
財源内訳				
補助金・負担金				
うち県分				
受託料等	20,400,000	20,400,000	20,400,000	20,336,000
うち県分	20,400,000	20,400,000	20,400,000	20,336,000
(上記のうち指定管理料)				
県が造成補助した運用財産の取崩収入				
資産運用収入				
使用料・入場料等				
借入金				
その他(上記以外)				
総コストの財源内訳				
補助金・負担金	55,000	422,678	2,256,819	598,000
うち県分	0	0	0	0
受託料等	28,304,341	28,750,138	45,766,093	48,035,000
うち県分	28,304,341	28,750,138	45,766,093	48,035,000
(上記のうち指定管理料)	0	0	0	0
県が造成補助した運用財産の取崩収入	0	0	0	0
資産運用収入	2,839,662	2,838,831	2,836,508	2,516,000
使用料・入場料等	0	0	0	0
借入金	0	0	0	0
その他(上記以外)	1,786,120	2,529,718	1,906,163	1,603,000
総コスト(財源内訳の計)	32,985,123	34,541,365	52,765,583	52,752,000

経営評価報告書[財務状況シート(各法人共通)]

(D)

1. 貸借対照表に関する項目

科目	コード	R2年度	R3年度	R4年度
I 資産				
流動資産	a	11,242,603	19,576,400	6,972,944
現金・預金	b	9,161,653	19,369,954	6,972,944
その他の流動資産	c	2,080,950	206,446	0
固定資産	d	271,826,547	265,897,375	262,899,988
基本財産	e	271,505,430	264,149,270	255,170,490
基本財産以外の固定資産	f	321,117	1,748,105	7,729,498
うち特定資産	g	321,116	1,748,104	7,729,497
(固定資産の性質別内訳)				
有形固定資産		1	1	1
無形固定資産				
投資等		271,505,430	264,149,270	255,170,490
資産計	h	283,069,150	285,473,775	269,872,932
II 負債				
流動負債	i	6,229,153	14,549,421	3,652,692
短期借入金	j			
うち県からの短期借入金	k			
その他の流動負債	l	6,229,153	14,549,421	3,652,692
固定負債	m	0	0	0
長期借入金	n			
うち県からの長期借入金	o			
その他の固定負債	p			
負債計	q	6,229,153	14,549,421	3,652,692
III 正味財産・資本				
基本金	r	271,826,546	264,441,056	259,973,801
うち県の出資・出えん分	s	213,197,291	207,404,750	203,901,014
基本金以外の正味財産・資本	t	5,013,451	6,483,298	6,246,439
当期正味財産・資本増減	u	1,456,311	1,469,847	▲ 236,859
準備金・前期繰越等	v	3,557,140	5,013,451	6,483,298
(うち県が造成補助した取崩し型運用財産)	w			
正味財産・資本計	x	276,839,997	270,924,354	266,220,240
負債と正味財産・資本の合計	y	283,069,150	285,473,775	269,872,932

【貸借対照表に関する項目の記載内容の注意事項】

※

※

参考: 正味財産の内訳(新公益法人会計適用団体のみ)

科目	コード	R2年度	R3年度	R4年度
正味財産				
指定正味財産	①	271,826,546	264,441,056	259,973,801
うち基本財産への充当額	②	271,505,430	264,149,270	255,170,490
うち特定資産への充当額	③	321,116	291,786	4,803,311
一般正味財産	④	5,013,451	6,483,298	6,246,439
うち基本財産への充当額	⑤			
うち特定資産への充当額	⑥			2,926,186
正味財産計	⑦	276,839,997	270,924,354	266,220,240

経営評価報告書[財務状況シート]

(D)-2

1-2. 資産に関する項目

(単位:千円)

固定資産	a	262900
基本財産	b	255170
有形固定資産	c	
無形固定資産	d	
投資等	e	255170
基本財産以外の固定資産	f	7730
有形固定資産	g	1
無形固定資産	h	
投資等	i	292

有形固定資産(g)の内容

主な資産	価額(千円)	資産の保有目的
車両運搬具	1	公益目的事業に使用

無形固定資産(h)の内容

主な資産	価額(千円)	資産の保有目的

投資等(i)の内容

区分	価額(千円)	資産の保有目的
アスリート育成積立	292	6号財産として、トップアスリート育成事業に使用

経営評価報告書[財務状況シート(公益法人等)]

(E)

2. 正味財産増減計算書に関する項目

科目	コード	R2年度	R3年度	R4年度
I 一般正味財産増減の部				
経常増減の部				
経常収益	①	32,985,123	34,541,365	52,765,583
基本財産運用益	ア	2,839,662	2,838,831	2,836,508
特定資産運用益	イ		7	21
入会金・会費	ウ	1,447,610	1,667,832	1,404,848
事業収益	エ			
補助金収益	オ	55,000	422,678	2,256,819
うち県からの補助金	カ			
受託等収益	キ	28,304,341	28,750,138	45,766,093
うち県からの受託等収益	ク	28,304,341	28,750,138	45,766,093
うち指定管理料	ケ			
負担金収益	コ			
うち県からの負担金収益	サ			
寄付金収益	シ	338,315	824,984	360,330
雑収益	ス	195	36,895	140,964
うちその他の財産の運用による利息等収益	セ			
経常費用	②	31,528,812	33,071,518	53,002,442
事業費	ソ	26,403,437	27,918,530	47,796,763
うち自主事業に係る事業費	タ	4,826,971	2,720,991	3,635,934
管理費	チ	5,125,375	5,152,988	5,205,679
(うち人件費)	ツ	20,400,000	20,400,000	20,400,000
評価損益等調整前当期経常増減額(①-②)	③	1,456,311	1,469,847	▲ 236,859
評価損益等調整額	テ			
当期経常増減額(③+テ)	④	1,456,311	1,469,847	▲ 236,859
経常外増減の部				
当期経常外増減額	⑤	0	0	0
経常外収益	ト			
経常外費用	ナ			
税引前当期一般正味財産増減額(④+⑤)	⑥	1,456,311	1,469,847	▲ 236,859
法人税、住民税及び事業税	ニ			
税引後当期一般正味財産増減額(⑥-ニ)	⑦	1,456,311	1,469,847	▲ 236,859
一般正味財産期首残高	ヌ	3,557,140	5,013,451	6,483,298
一般正味財産期末残高(⑦+ヌ)	⑧	5,013,451	6,483,298	6,246,439
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	ネ	▲ 5,812,165	▲ 7,385,490	▲ 4,467,255
指定正味財産期首残高	ノ	277,638,711	271,826,546	264,441,056
指定正味財産期末残高(ネ+ノ)	⑨	271,826,546	264,441,056	259,973,801
III 正味財産期末残高(⑧+⑨)	⑩	276,839,997	270,924,354	266,220,240

【備考】

基本財産からの取崩収入	ハ			
うち県分	ヒ			
特定資産からの取崩収入	フ	338,315	360,330	360,330
うち県分	ヘ	265,345	282,612	282,612
借入金収入	ホ			
うち県分	マ			
その他	ミ			
うち県分	ム			
計(ハ+フ+ホ+ミ)	⑪	338,315	360,330	360,330
収入計(①+ト+⑪)	⑫	33,323,438	34,901,695	53,125,913
職員数[人]	メ	4	4	4

経営評価報告書[財務状況シート(公益法人等)]

(G-1)

4. 評価指標に関する項目(公益法人等)

	No.	指標名	計算式		内容	R2年度	R3年度	R4年度
安全性・健全性	1	自己資本比率	正味財産÷資本計÷資産計×100%	x/h	総資本にしめる返済義務の無い自己資本の割合から、外郭団体の財務基盤の安定性・健全性をみる。	97.8%	94.9%	98.6%
	2	流動比率	流動資産÷流動負債×100%	a/i	1年以内に返済しなければならない流動負債に対する1年以内に資金化できる流動資産の比率から、外郭団体の支払能力をみる。	180.5%	134.6%	190.9%
	3	固定長期適合率	固定資産÷(固定負債＋正味財産÷資本計)×100%	d/(m+x)	固定的な資金調達(自己資本＋長期負債)に対する固定資産の比率から、外郭団体の固定資産投資の安全性をみる。	98.2%	98.1%	98.8%
	4	借入金依存率	借入金収入÷当期収入合計×100%	ホ/⑫	当期収入額に占める借入金収入の割合から、外郭団体の借入金への依存度をみることにより、財務基盤の健全性をみる。	0.0%	0.0%	0.0%
			貸借対照表における借入金計÷資産計×100%	(j+n)/h	金利負担のある負債と外郭団体等が調達した全ての資産との比率から、外郭団体等の調達資金の安定性と金利変動に対する経営リスクを見る。	0.0%	0.0%	0.0%
効率性	5	人件費比率	人件費÷経常費用×100%	ツ/②	当期費用に占める人件費の割合から、外郭団体等の経営の効率性をみる。	64.7%	61.7%	38.5%
	6	管理費比率	管理費÷経常費用×100%	チ/②	当期費用に占める管理費の割合から、外郭団体の経営の効率性をみる。	16.3%	15.6%	9.8%
	7	職員一人あたり事業収益額	事業収益÷職員数	エ/メ	職員一人あたりの事業収益の推移をみることにより外郭団体の効率性をみる。	0.0	0.0	0.0
	8	基本財産運用効率	基本財産運用益÷基本財産×100%	ア/e	資金運用益の状況から基本財産の運用効率を判断する。	1.0%	1.1%	1.1%
自主性	9	県への財政的依存度	県からの収益(補助金＋受託等＋負担金)÷経常収益×100%・・・(1)	(カ＋ク＋サ)/①	経常収益に占める県からの補助金等の割合から、財政上の県との関わり合いを判断する。	85.8%	83.2%	86.7%
			(1)の収益から県の指定管理料を控除した場合	(カ＋ク＋サ－ケ)/①	(1)より、県の指定管理料を控除して算定した依存度により、財政上の県との関わり合いを判断する。	85.8%	83.2%	86.7%
			※参考 (1)の収益＋特定資産からの取崩収入のうち県分)÷経常収益×100%・・・(2)	(カ＋ク＋サ＋ヘ)/①	(1)に加え、特定資産からの取崩収入のうち県分を加味し、財政上の県との関わり合いを判断する。	86.6%	84.1%	87.3%
			(2)の収益から県の指定管理料を控除した場合	(カ＋ク＋サ＋ヘ－ケ)/①	(2)より、県の指定管理料を控除して算定した依存度により、財政上の県との関わり合いを判断する。	86.6%	84.1%	87.3%
	10	受託等収益率	受託等収益÷経常収益×100%	キ/①	経常収益の中に占める受託等の割合から、受託事業への依存度を判断する。	85.8%	83.2%	86.7%
	11	補助金収益率	補助金収益÷経常収益×100%	オ/①	経常収益の中に占める補助金の割合から、補助金収益への依存度を判断する。	0.2%	1.2%	4.3%
	12	自主事業比率	自主事業費に係る事業費÷事業費×100%	タ/ソ	事業費に占める自主事業の割合から、自主事業への取り組み状況を判断する。	18.3%	9.7%	7.6%

指標にかかるコメント等

--

経営評価報告書[項目別チェックシート(各法人共通)]

(I)

1. 団体の存在意義および存続性にかかる項目

チェック項目	評価	説明
事業内容が設立目的に合致しているか ----- A: 全ての事業が目的に合致 B: かなりの事業が目的に合致 C: 目的に合致するものが少ない	A	
設立目的に合致した社会的要請があり、公益団体として存在意義が認められるか ----- A: 認められる B: 社会的要請は減少してきているが認められる C: 存在意義が薄れつつあるまたはほとんど無い	A	
設立目的及び事業内容が類似する非営利団体があるか ----- A: 全くないまたは存在するが、合理的理由により差別化ができる B: 差別化の理由が希薄であるが、代替は困難 C: 代替することが比較的容易	A	県域で障がい者スポーツの推進を図る団体は本会のみである
類似する事業内容を行う営利企業があるか ----- A: 全くないまたは存在するが、合理的理由により差別化ができる B: 差別化の理由が希薄であるが、代替は困難 C: 代替することが比較的容易	A	県域で障がい者スポーツの推進を図る団体は本会のみである
団体として人的体制が整っているか ----- A: 事業規模に応じたプロパー職員がいる B: 県派遣等を含め事業に対応した体制になっている C: プロパー職員が極端に少ないまたはいない	B	事業実施にあたっては、競技団体・ボランティア等の関係機関からの協力体制を得ることができる
財政基盤の面で安定しているか ----- A: 取り崩し型運用財産以外の自主的財源があり安定している B: 安定した補助金や受託事業収入があり当面安定している C: 不安定な補助金、受託事業や取り崩し型運用財産に頼っており不安定	A	自主事業実施にあたり、自主財源を確保する必要があるが、受託金収入等により安定している

自己評価の点数化集計

Aと回答した数 × 2点 = 点

Bと回答した数 × 1点 = 点

Cと回答した数 × 0点 = 点

計 点 …①

総回答数 × 2点 = 点 …② 比率 $\frac{①}{②} \times 100 =$ %

2. 組織体制および運営状況にかかる項目

チェック項目	評価	説明
理事会等は適正に開催され、かつその機能は十分に発揮されているか ----- A: 定期に加え、必要の都度機動的に開催し、重要事項を決定している B: 定期開催時に事業内容等についても合わせて審議している C: 定例的なもののみで議事内容も定例的なものとどまっている	A	概ね定期開催のみであるが、議決事項以外にその都度事業進捗状況等を報告、審議している
評議員会等は適正に開催され、かつその機能を十分発揮されているか ----- A: 定期に加え、必要の都度機動的に開催し、重要事項を審議している B: 定期開催時に事業内容等についても合わせて審議している C: 定例的なもののみで議事内容も定例的なものとどまっている	A	概ね定期開催のみであるが、議決事項以外にその都度事業進捗状況等を報告、審議している
組織人員のスリム化に向けた見直しを行っているか ----- A: 見直しを行い、実施している又は見直しを行う必要がない B: 見直しの作業を行っている C: 見直しの必要があるが行っていない	A	「島根かみあり国スポ・障スポ2030」の開催に向け、事業を拡大強化していく必要があり、見直しを行う必要はない
役員報酬規程、職員給与規程、就業規則、決裁規則、会計・経理規程等が整備され、適切に運用されているか ----- A: 必要な規程は全て整備され適切に運用されている B: 職員の周知徹底を含め運用に不十分な点がある C: 必要な規程が整備されていない	A	基本規程は整備され、必要に応じて県社協規程を準用することにより運用している
情報公開・個人情報保護に関する規程を定めているか ----- A: 2つとも定めている B: 一方を定めていない C: 2つとも定めていない	A	両規程ともに定めている
事業活動内容・財務状況等について広報誌やホームページ等で積極的に情報公開しているか ----- A: 全て公開している B: 一部公開している C: 公開していない	A	公開している
人材育成・能力開発を行っているか ----- A: 研修会を開催したり、外部研修会に参加させるなどを十分に行っている B: 十分ではないが行っている C: 行っていない	A	県社協職員として、研修体系に基づき人権研修等を実施している

自己評価の点数化集計

Aと回答した数 × 2点 = 点
 Bと回答した数 × 1点 = 点
 Cと回答した数 × 0点 = 点
 計 点 …①

総回答数 × 2点 = 点 …② 比率 $\frac{①}{②} \times 100 =$ %

3. 事業の実施状況にかかる項目

チェック項目	評価	説明
提供するサービスに対する顧客満足度及び顧客のニーズの把握に努めているか ----- A:あらゆる機会を捉え、積極的に調査を行い把握に努めている B:十分ではないが必要に応じ把握に努めている C:あまり努めていない	B	事業内容によるが、機会をとらえてアンケート調査等を実施している
団体として将来見通しを立て、計画的に事業実施を図っているか ----- A:数値目標、収支計画、年次計画を盛り込んだ計画を策定し事業を行っている B:一部の事業、一部の内容についての計画または短期的な計画を策定し事業実施している C:計画的な実施ができていない	B	ニーズ、社会状況等を踏まえ計画をたて実施している
事業実施にあたって目標数値等を設定し、達成状況を評価・活用しているか ----- A:目標を設定し、評価・活用している B:目標を設定しているが達成状況の評価にとどまっている C:できていない	A	参加者数などを目標値とし、結果をもとに実施時期や内容等を検討している
事業毎に費用対効果を分析し、事業見直しに活用しているか ----- A:十分に分析し、活用している B:かなり分析し、活用している C:あまり分析せず・活用もしていない	B	事業の性質上、費用対効果の分析が難しいものもあるが、事業結果をもとに見直しを行っている
コストを抑制して、事業活動を効率的に行っているか ----- A:少ないコストにより、多くの事業活動を効率的に行っている B:コストの抑制に心がけているが、事業活動が効率的とはいえない C:行っていない	A	財源を有効活用するために積極的にコストの抑制に努めている
受託事業の再委託率が高くなっていないか ----- A:低いまたは低下傾向にある B:高いが合理的理由がある C:高く、再委託先に任せきりにしている事業が多数ある	A	再委託はない
保有資産の有効活用が図られているか ----- A:資産の有効活用により、十分な事業活動が可能である。 B:資産を活用しているものの、事業活動の成果が十分とは言えない C:資産が活用されていない又は保有目的が不明確な資産がある	A	保有資産を運用することで、財源捻出に努めている

自己評価の点数化集計

Aと回答した数 × 2点 = 点
 Bと回答した数 × 1点 = 点
 Cと回答した数 × 0点 = 点
 計 点 …①

総回答数 × 2点 = 点 …② 比率 $\frac{①}{②} \times 100 =$ %

4. 財務状況および財務指標にかかる項目

チェック項目		評価	説明
安定性	1 自己資本比率が低下傾向にないか A: 低下傾向にない B: 低下傾向にあるが、緩やかである C: 近年大幅に低下する傾向にある	A	
	2 流動比率が100%以上あるか A: 100%以上ある B: — C: 100%未満である	A	
	3 前年度末現在の借入金の返済が可能か A: 借入当初の返済計画通り返済が可能 B: 当初の返済計画通りでないが返済計画の見直しを行った C: 返済計画の見直しの必要がある	—	借入金はない
	4 借入金依存度(借入金÷総資産)が適正か A: 横ばいまたは低くなっている B: 上昇傾向にあるが、合理的な理由がある C: 上昇傾向にあり、適正でない	—	借入金はない
	5 資産の管理は適切か A: 資産の時価評価(又はそれに準じた評価)が行われており、価値が確保されている B: 資産の時価評価(又はそれに準じた評価)が行われているが、価値が低下している C: 資産の時価評価(又はそれに準じた評価)が行われていない	B	
効率性	6 人件費比率は適正か A: 横ばいまたは低くなっている B: 上昇傾向にあるが、合理的な理由がある C: 上昇傾向にあり、適正でない	A	
	7 管理費比率は適正か A: 横ばいまたは低くなっている B: 上昇傾向にあるが、合理的な理由がある C: 上昇傾向にあり、適正でない	A	
	8 職員一人当たりの事業収益額の推移は適正か A: 増加傾向または横ばいである B: 減少傾向だが、合理的な理由がある C: 減少傾向にある	—	収益事業は行っていない
	9 基本財産や運用財産を適正・効率的に運用しているか A: 規程を整備し適正・効率的に運用している B: 規程はないが効率的な運用を行っている C: 不十分であり改善の余地がある	A	規程を整備し、運用している
自立性	10 県への財政依存度は適正か A: 低下、横ばい傾向または県の事業拡充等により上昇している B: 上昇傾向にあるが特殊な事情があるなど合理的理由がある C: 上昇しており自立性が低下している	A	
	11 受託等収益率は適正か A: 低下、横ばい傾向または目的事業の拡充等により上昇している B: 上昇傾向にあるが特殊な事情があるなど合理的理由がある C: 上昇しており自立性が低下している	A	
	12 補助金収益率は適正か A: 低下、横ばい傾向または目的事業の拡充等により上昇している B: 上昇傾向にあるが特殊な事情があるなど合理的理由がある C: 上昇しており自立性が低下している	A	
	13 自主事業比率は適正か A: 上昇、横ばい傾向または目的事業の拡充等により低下している B: 低下傾向にあるが特殊な事情があるなど合理的理由がある C: 低下しており、自立性が低下している	A	

自己評価の点数化集計

Aと回答した数 × 2点 = 点

Bと回答した数 × 1点 = 点

Cと回答した数 × 0点 = 点

計 点 …①

総回答数 × 2点 = 点 …②

比率 ①÷②
× 100 =

%

経営評価報告書[総合評価シート(各法人共通)]

(J)

1. 評価結果(個別観点)

観 点	評価内容	評価
団体のあり方	設立目的のとおり、障がい者がスポーツを通じて健康の増進と自立意欲の向上を図ることにより社会参加を促進するとともに、障がい者への理解促進を図り、共生社会の実現を目指すことを目的として、広く県民に向けて障がいの理解促進を図る事業を実施した。	A
組織運営	理事会、評議員会による法人運営のほか、障がい者スポーツ指導者協議会や各種競技団体等との連携を行い、事業の推進を図っている。	A
事業実績	新型コロナウイルス感染防止を行いながらの事業実施となったが、島根県障がい者スポーツ大会、障がい者スポーツの集い等の各種事業を通じて障がい者理解の促進を図った。また、3年ぶりに全国障害者スポーツ大会の派遣ができた。	—
財務内容	事業目的を明確にした上で賛助会員を募集し、自主財源確保に努めた。	A

評価の目安

A:良好である B:ほぼ良好である
C:やや課題がある D:課題が多い

2. 総合評価(今後改善すべき内容、方向性等)

課題の内容等	今後の方向性等
「島根かみあり国スポ・障スポ2030」の開催に向けた諸準備	大会に参加する選手の発掘ならびに育成、それらを支える指導者の養成、さらに大会を支えるボランティアの育成等に積極的に取り組む必要があり、急務である。

令和 5 年度事業計画書

【基本目標】

障がい者のスポーツ活動の社会的価値を高める

【推進テーマ】

テーマ 1 地域を基盤としたスポーツの推進

本県において、2030 年(令和 12 年)に国民スポーツ大会及び第 29 回全国障害者スポーツ大会(愛称「島根かみあり国スポ・全スポ」)が開催されることになり、同大会に向けた準備が進められつつあります。

同大会の機運を高めるためにも、障がい者が日常生活の中で楽しむスポーツや競技スポーツなど、身近な地域において、自主的・主体的にスポーツができる機会の充実を図ります。

テーマ 2 トップアスリートの発掘と育成

障がい者スポーツにおける島根県出身のトップアスリートの活躍は、県民の障がい者観の変容をもたらすとともに希望と誇りを与え、また、障がい者のスポーツ活動への理解・関心が深まることにより、その価値を高めることにつながります。

そこで、これまでに引き続き、世界で戦うことができるトップアスリートの発掘・育成に取り組んでいきます。

テーマ 3 支援者の活性化と拡大

島根県障がい者スポーツ指導者協議会をはじめとした障がい者スポーツに関わる様々な機関・団体との連携・協働を一層強化するとともに、公認障がい者スポーツ指導員の養成に取り組み、障がい者スポーツ活動をサポートする支援者の輪を拡げていきます。

【実施計画】

《公益目的事業》

【公 1 : 障がい者のスポーツ活動の振興】

障がい者が日常的にスポーツに親しむための活動を支援します。併せて競技スポーツにおけるアスリートやその指導者の育成を強化し、障がい者のスポーツ活動の振興を図ります。

(1) 全国障害者スポーツ大会強化派遣事業

①全国障害者スポーツ大会個人競技選手選考会の開催

期日：6月

会場：いきいきプラザ島根

②全国障害者スポーツ大会強化練習会の開催

期日：8月～9月

会場：松江市営陸上競技場ほか

③特別全国障害者スポーツ大会への選手団派遣

期日：10月28日（土）～30日（月）

※派遣期日10月26日（木）～10月31日（火）

会場：鹿児島県

派遣予定人員：個人競技選手22名（身体10名・知的10名・精神2名）

役員30名

(2) 島根県障がい者スポーツ大会開催事業

【第24回島根県障がい者スポーツ大会】

競技名	期日	開催地
ボウリング	4月22日（土）	松江市
水泳	5月13日（土）	松江市
陸上	5月14日（日）	松江市
フライングディスク	5月20日（土）	浜田市
アーチェリー	5月21日（日）	松江市
一般卓球	5月27日（土）	出雲市
サウンドテーブルテニス	5月27日（土）	出雲市
ボッチャ	6月11日（日）	松江市
ソフトボール	11月11日（土）	出雲市
グラウンド・ゴルフ	11月26日（日）	出雲市
バドミントン	12月9日（土）	浜田市
ソフトバレーボール	1月20日（土）	出雲市

(3) 島根県障がい者スポーツ大会実行委員会の開催

①各競技開催地・競技団体等関係者による実行委員会の開催

(4) 選手強化育成事業

①地域におけるスポーツ活動振興事業の実施

障がい者スポーツ指導員派遣事業

②トップアスリート発掘支援事業の実施

トップレベルでの活躍が期待できるアスリートを発掘するための練習会・記録会等の実施

③トップアスリート強化育成事業の実施

強化選手の指定・育成および強化支援金の支給

(5) 団体強化派遣事業

①団体強化練習会の開催

●②中国四国ブロック予選会バレーボール競技会(精神)の開催

期日：4月29日(土)～30日(日)

会場：安来市民体育館

③中国四国ブロック予選会への派遣

競技名	開催地	開催日程(予定)
バスケットボール(知的)	山口県山口市	6月10日(土)・11日(日)
ソフトボール	香川県丸亀市	5月27日(土)・28日(日)
サッカー	徳島県板野町	5月13日(土)・14日(日)

(6) 障がい者スポーツ活動支援助成事業

①障がい者スポーツ活動支援助成

(7) スポーツ教室の開催

①スキー・スノーボード教室の開催

期日：1月(予定)

会場：琴引フォレストパークスキー場(飯南町)

②ボッチャ交流会の開催

期日：7月(予定)

会場：未定

(8) 第29回全国障害者スポーツ大会の開催準備

①島根かみあり国スポ・全スポ準備委員会への参画

ア.常任委員会への参加

イ.総務企画専門委員会への参加

●ウ.全国障害者スポーツ大会専門委員会への参加

②広報・周知

●島根かみあり国スポ・全スポロゴマークを利用した大会開催の周知

※各種印刷物、役職員名刺、本会ホームページへの掲載

③要望活動

●本会体制強化に向けた予算拡充等の要望活動

※本会役員や障がい者スポーツ関係者にヒアリングして、要望を取りまとめる

【公２：障がい者のスポーツ活動に関する調査研究及び啓発広報】

広く県民に対し、障がい者のスポーツ活動への理解促進を図ります。

（１）「障がい者スポーツの集い」の開催

島根県・島根県教育委員会・島根県スポーツ協会・島根県レクリエーション協会との合同によるイベントの開催

期日：未定

会場：松江市、浜田市（２会場）

（２）広報啓発

①ホームページなど様々なメディア媒体を使用した広報啓発

（３）障がい者スポーツ功労者等の表彰（全国・県）

①県障害者スポーツ協会理事長表彰（しまね県民福祉大会）

期日：10月14日（土）

会場：くにびきメッセ（松江市）

②日本パラスポーツ協会会長表彰

期日：2月

会場：東京都

（４）障がい者スポーツ関係者会議

①日本パラスポーツ協会関係会議への出席

【公３：障がい者のスポーツ活動の支援者育成】

障がい特性の理解やそれに応じた支援方法などを習得する機会を提供し、障がい者のスポーツ活動をサポートする支援者の輪を広げていきます。

（１）障がい者スポーツ指導員活動の強化支援

①公認パラスポーツ指導者養成研修会の開催

②県障がい者スポーツ指導者協議会との連携・協働

（２）障がい者スポーツボランティアの推進

①障がい者スポーツボランティアバンクの運営・広報

②各種大会等へのボランティアコーディネート

《法人運営》

（１）会務の運営

①理事会・評議員会・監査会の開催

（２）自主財源の確保

①賛助会員の拡大

（３）公用車の更新